

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)82367
担当部課名	経済部	商業観光	課	ふるさと観光係
事務事業名	観光事業補助金		事業コード	35210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	輝き魅力あるまちづくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	観光の振興と余暇対策の推進	~63年度
施策名	第1施策	魅力ある観光資源の整備と情報発信	

2 実施根拠及び関連法令等

なし

3 事業概要

(1) 事業の目的	(2) 対象(誰、何)
相模原市の五大観光(泳げ鯉のぼり相模川・相模の大凧まつり・上溝夏祭り・相模原納涼花火大会・橋本七夕まつり)を支援することにより、古くから伝わる伝統芸能や文化の保存、また、市民の郷土意識を高める。	市民
	対象数 61万人市民 他
(3) 平成13年度事業の内容	(4) 総合計画・実施計画における概要
泳げ鯉のぼり相模川 (41万人)【2,970千円】 相模の大凧まつり (5.8万人)【3,780千円】 上溝夏祭り (34万人)【3,780千円】 相模原納涼花火大会(32万人)【9,600千円】 橋本七夕まつり (41万人)【9,600千円】 以上の事業に対して助成を行った。()は来場者数 【】は補助金額を表す	相模原市民まつり、泳げ鯉のぼり相模川、相模の大凧まつり、上溝夏祭り、相模原納涼花火大会、橋本七夕まつりの支援
	(5) 個別計画の概要
	計画名 相模原市観光振興計画
	計画年次 14年度~18年度

4 評価指標

指標名	市民一人あたりの補助金の支出割合	市民一人あたりの決算の割合	補助率
指標式	補助金合計額/人口 人口は平成11年度は59万人・平成12年度は60万人・平成13・14年度は61万人として算出した	実行委員会決算合計額/人口	補助金合計/実行委員会決算額合計×100
指標設定の意図	市民対象の事業のため、誰でもまつりを楽しむことができると考え、補助金の金額を検討するため。	市民対象の事業であるため、誰でもまつりを楽しむことができると考え、決算に対する補助金の額を検討するため。	決算額に対し、補助金の割合を検討するため。

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	47	47	a 51	b 51	43	
指標	98	101	c 107	d 107	104	
指標	48	47	e 47	f 47	41	
事業費	決算(予算)額	27,630	28,430	30,900	30,900	26,130
	人員・時間数	0.75人	0.75人	0.75人	0.75人	0.75人
	人件費	6,315	6,315	6,315	6,315	6,315
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	33,945	34,745	37,215	37,215	32,445
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		
a	50.6	c	107.4
b	50.6	d	107.4
$\frac{a}{b} \times 100 = 100.0\%$		$\frac{c}{d} \times 100 = 100.0\%$	
e	47.1	f	47.1
$\frac{e}{f} \times 100 = 100.0\%$			

理由： 予算に応じた補助金の支出を行った。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由： 社会の変化とともに日程の変更や会場の変更など行ってきたが、中心となるものは変わっていない。しかし、それが時代に逆行するものではなく、古くからのものを継承し、保存する意識につながっているため適応していると考え。	
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A : 妥当である	理由： 補助率から鑑みると47%となっており、概ね妥当と思われる補助率ではあるが、補助金額を定めるあたり根拠がないことから、補助の方針を定める必要がある。	
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由： 市の五大観光の位置付けからも市以外の代替の可能性は低い。	
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A : 満足できる	理由： 来場者の反応や来場者数の増加、また、運営している実行委員会の熱心な取り組み状況などから見て、概ね満足しているものと思われる。	
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 B ▼	A : 有効である	理由： 県内外からの来場やイベント紹介などのマスコミ対応など、61万人都市をPRしていく上で有効である。	
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 補助の方針を定めること</p>	
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 今後の補助金、協賛金の減額に対応するため、自主財源の確保に努めているが、早々の補助金交付額の見直し(減額)は難しい。</p>	

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--